

平成 17 年 4 月 25 日

委員長コメント（2004（平成 16）年エイズ発生動向の概要について）

1 HIV感染者・AIDS患者報告数

1) HIV感染者の報告数

2004（平成 16）年は、日本国籍・外国国籍合わせて 780 件と、過去最高となった（これまでの最高は前年の 640 件）〔図 1 参照〕。

日本国籍男性の増加が顕著で、本年の報告数は 636 件と初めて 600 件を超え（過去最高）〔図 3 参照〕、HIV感染報告全体（780 件）の 82%を占めている。

2) AIDS患者の報告数

本年は、日本国籍・外国国籍合わせて 385 件で、HIV感染者と同様、過去最高となった（これまでの最高は前年の 336 件）〔図 1 参照〕。

AIDS患者についても、日本国籍男性の増加が顕著で、本年の報告数は 290 件と過去最高となった（これまでの最高は前年の 252 件）〔図 9 参照〕。

3) 結果

本年のHIV感染者とエイズ患者の発生は、1,165 件と初めて 1,000 件を超える報告数となった。

2 感染経路

本年のHIV感染者報告例の感染経路は、同性間の性的接触が 468 件（全HIV感染者報告数の 60.0%）、異性間の性的接触が 200 件（うち男性 142 件、女性 58 件。全HIV感染者報告数の 25.6%）である。性的接触によるもの合わせて 668 件のうち男性 610 件、女性 58 件となり〔図 2 参照〕、男性の割合は 91%である。

AIDS患者報告例の感染経路は、性的接触によるものが合わせて 276 件（うち男性 252 件、女性 24 件）で、そのうち、同性間の性的接触が 141 件、異性間の性的接触が 135 件（うち男性 111 件、女性 24 件）であった〔図 10 参照〕。

全体の中で日本国籍男性については、HIV感染者・AIDS患者のいずれにおいても、同性間の性的接触が 1999（平成 11）年頃から急増しており、本年はいずれも過去最高の報告数（HIV感染者 449 件、AIDS患者 126 件）となった。

1985 年以降の累積報告数で異性間性的接触による日本国籍HIV感染者を見ると、性別・年齢階級別では、15-24 歳では男性 82 人に対して女性 105 人と、女性の方がむしろ多い〔図 6 参照〕。

3 外国国籍報告

本年のHIV感染者は 100 件（前年 83 件）、AIDS患者は 76 件（前年 65 件）となっており、合計件数についても、感染経路についても、過去 10 年間では年次推移に大き

な変化は見られない〔図 11〕。

4 推定される感染地域及び報告地

推定される感染地域は、H I V感染者の 82.4% (643 件)、A I D S 患者の 69.6% (268 件) が国内感染であった。

報告地は、東京、その他の関東・甲信越ブロックが依然多く、本年報告例ではH I V感染者の 58.6% (457 件)、A I D S 患者の 62.3% (240 件) を占めている。ただし、年次推移をみると、その他全てのブロックにおいても、過去最高レベルの報告が続いている〔図 13 参照〕。特に近畿においては、ここ数年で増加傾向が著しい。

5 まとめ

2004 (平成 16) 年におけるH I V感染者、A I D S 患者の報告数は、合計が 1,000 件を突破し、いずれも過去最高となるなど、依然として増加を続けている。H I V感染者は、異性間性的接触によるものが 25.6%を占め、同性間性的接触が 60.0%を占める。

H I V感染者数を男性のみで見ると同性間性的接触がその 67%を占めており、その 41%が 10-20 代の若年層である。

他方、日本国籍異性間性的接触を全年齢階級で見ると、男性が大多数を占めるが、若年層を見ると、女性感染者が男性感染者を上回っている。

したがって、男性の同性間性的接触を含め若年層のH I V感染に対して、積極的な予防施策が必要である。

H I V感染は、これまでの東京を中心とする関東地域に加え、近畿、東海ブロックなど地方大都市においても報告数の増加傾向がみられ、各地域での対策の展開が望まれる。

なお、2004 (平成 16) 年エイズ発生動向の詳細については、5 月下旬に年報を公表予定である。